



歴史的事件が報道された新聞の箇名

新聞でたどる近代史

【展示期间】

10月1日 ▼ 12月4日

トピックス

江戸、薩摩を震撼させた里
ケネディ大統領暗殺される
アポロ、月面に到着

新聞で歴史を読む

王門新目錄

近代日本の新聞の起源は、江戸時代に発行された「かわら版」といわれる。明治に入り、日刊新聞の第1号である「横

日本最初の新聞「横浜毎日新聞」
神奈川県横浜市中区本町1-1
TEL 045-321-1111 FAX 045-321-1112

貴重な資料を
多数展示



新聞に加え當時の広告チラシ、絵はがき、冊子、西南戦争を題材にした鉛筆などの展示により、当時の人々の暮らしぶりなどを詳しく知ることができます。

兵毎日新聞」が発刊されると、その後相次いで各地に新聞が誕生し世相を映すが、それが競争となつた。今回企画では、武業半島のコレクションの中から、「新聞の黎明期の様相」、南日本で最も古い鹿児島新聞の発刊と普及、鹿児島新聞の変遷をたどる。幕末から今までの歴史的事件を追うことによって、新聞の変遷をたどってきた役割の意義を考えてみたい。

第一部

【主 催】

指宿まるごと博物館構想推進実行委員会・時遊館COCCOはしむれ
【資料提供】大武文庫 【後援】南日本新聞社・読売新聞西部本社・KTS鹿児島テレビ

展示資料リスト（大蔵文庫所蔵）

- 江戸、鹿屋を襲撃させた黒船の米朝、諸国海岸封鎖場所・周囲と之間 嘉永7年

2 山川、辻道、など海防の防護を認める。海防開港場所附則 嘉永7年

3 聖國河岸土山被築、富士山町奉表村東山町役場附則 嘉永7年

4 京都名古屋内面圓城裏三草大削刈除法、幕末

5 周防若狭高見原草除、幕末

6 鹿児島戊辰事件御詔安政6年8月7日

7 安政コロナの連作二ニメ、諸侯令既死人書上等、安政6年

8 新聞開業、慶応元年11月

9 御使駕の忠砂台配給と萬葉草の航跡 史叢名勝天然記物調査会 紹和7年3月

10 新聞書、明治3年8月16日

11 御勤書井川西郷先生貴状等 明治4年8月

12 佐賀諭旨、『制則前(げぜん)』新規の『のし』の廢し、明治6年

13 佐賀の御説教各題 明治7年3月28日

14 桃源寺新報、第1号(複製)明治8年12月8日

(「天國コロシシム」からある新聞)江戸・兵庫三百件目特別付録)

15 内外新聞、第59号 嘉永5年6月15日(明治元年)

16 外国事務日誌、朝刊号 明治元年10月

17 明治元年西郷論、文政文久又馬頭 明治5年

18 太陽暦用に乍ら古今の算数法、太政官令第36号 明治6年2月5日

19 前原一成の斬罪事件 明治6年12月3日

20 鹿児島教育記、樺山久次郎 明治10年 東京

21 鹿児島海軍艦、金井口二〇〇 明治10年 大阪新町

22 鹿児島府邸記 日野村東丈 明治10年 京都

23 鹿児島造兵記、内藤魯次郎 明治10年 東京

24 鹿児島県立、大庭在之助 明治10年 東京

25 明治10年丘珠公撰:櫻井の説、福沢諭吉著 明治34年4月

26 鹿児島被説得、眞理兄弟下田田舎の、楊州鹿児島屋、明治10年

(説得)鹿児島新報第1号(池上別紙)、鹿児島新報 明治10年10月19日

(説得)鹿児島就職、少年隊の、眞理兄弟屋、明治11年3月

27 西郷隆盛の決起公宣と進退、等々、鹿児島高島通路9号 明治11年2月12日

28 西郷軍の討伐をはじめる、組組、明治10年3月10日

29 川原利舟大嘆祭の歌謡研究 本邦、鳥取新聞 第2683号

30 日刊新聞、鹿児島に隠す、鹿児島新聞 第1号 明治15年2月10日

31 鹿児島に隠す必ず吉の出伏紙、鹿児島新報 第10号 明治15年3月7日

32 東京・京橋新報に掲てした新聞配達停止通知書、明治15年12月23日

33 放鳥津久太公爵主鶴岡町、鹿児島新報、第4633号 付録 明治20年12月

34 鹿児島光武公爵、鹿児島新報、合論第2号 付録 明治20年12月16日

35 西郷隆盛と鹿児島兄弟の背後、久慈屋近江堂販賣店販賣、明治20年10月7日

36 鹿児島新報、専門刊行で出資する、鹿児島新報 第2046号 明治22年9月15日

37 日清の風潮、急を告げる日清戦争へ、鹿児島新報 第3568号 明治27年6月20日

38 新聞が鹿児島の頭に立ち、鹿児島新報 第3572号 明治27年6月24日

39 公電文書、清国北洋艦隊が降伏、乙丸第38号 付し 明治28年2月14日

40 清を統治、日本の旗に、鹿児島毎日新聞、等々、明治28年10月23日

41 美術星太郎が横顔、美術し体操、鹿児島毎日新聞、等々、明治30年1月13日

42 錦文会鳥取郡部と西洋社会規範 明治

43 同志会新報、明治22年

44 独立俱樂部員譜、明治23年

45 鹿児島有志新聞の発行歴産業、明治32年

46 貧農や農業問題、十年の経過と開拓地、鹿児島新報 第3550号 明治27年6月30日

47 西郷隆盛の愛犬は神の門前、明治43年

48 記事牽引の止命に違反、鹿児島新報 第3556号 明治27年6月6日

49 行使停頓と伝ふる、鹿児島毎日新聞、等々、明治28年5月2日

50 東京電線、宜宣、有色の鉛筆、鹿児島新聞 第1号 明治37年2月11日

51 京都御所、官邸、鹿児島新報 第1315号 明治37年5月20日

52 須磨口の小川用、鹿児島新報 第19号 明治37年6月25日

53 鹿児島港汽船の公爵、鹿児島新報 第2号 明治37年7月1日

54 改政吹き放題、鹿児島民衆新聞 第1327号 明治37年7月16日

55 白帝の從軍記者、鹿児島民衆新聞 第1386号 明治37年7月30日

56 佐田万蔵、赤穂古賀再報、鹿児島民衆新聞 第2号 明治37年8月1日

57 鹿児島外洋郵便公報、鹿児島民衆新聞 第2号外 明治37年8月12日

58 今度揚馬城の公爵公邸、鹿児島新報 第1号外 明治37年9月4日

59 伏木代内「弓取入外」等、鹿児島民衆新聞 第1540号 付録 明治38年1月2日

60 「龍谷」を予想、業で時を計る、鹿児島民衆新聞 第1号外 明治38年1月2日

61 千葉天王寺、伏木代内、鹿児島新報 第6565号 付録 明治38年3月1日

62 第四回(郷土紹介)が登場、鹿児島民衆新聞 第1号外 明治38年9月3日

63 日本海舟と大陸舟、民間人にあつて言ふ、明治38年5月29日

64 大会公報、鹿児島市全浦、大阪版新報、等々(複数) 明治38年5月29日

65 白質争執はがき 明治38年 7枚

66 家庭新聞、井村家 女性欄の「イオノイ」 三州家庭新聞 第2号 明治39年10月3日

67 家庭婦人の愛犬、鹿児島民衆新聞 第14号 明治40年6月5日

68 石版画、上野公園西南隅廻遊橋、筑前吉備南西、免行 大正2年1月25日

69 犬山城の塗はがき 9枚 大正3年

70 第一次世界大戦争、青木千吉著、大阪毎日新聞 第2号外 大正3年9月27日

71 鹿児島新報、1万字紀行柳川伊勢、鹿児島新報所はがき(複数)大正5年頃

72 山形屋ゲートの新規開拓、開拓、鹿児島新報所はがき(複数) 大正5年7月

73 鹿児島市の警察局、天文通りの敷い、鹿児島新報所はがき(複数)大正5年7月

74 開港、鹿児島の港、大正5年6月1日

75 開港、鹿児島の港、大正5年6月1日

76 開港、鹿児島の港、大正5年6月1日

77 開港、鹿児島の港、大正5年6月1日

78 大正天皇御幸、新潟市も其御幸 九州日日新聞 号外 大正5年12月25日

79 東京御幸御宿、群馬の儀の内定 大阪毎日新聞 号外 昭和1年5月30日

80 滋賀県を御幸、新潟市に博多市、鹿児島新報 第1649号 昭和7年9月16日

81 五・五一事件、大審官相次ぐ、大阪毎日新聞 号外 昭和7年5月17日

82 五一・五一事件決定会、大阪毎日新聞 号外 昭和7年5月17日

83 滋賀州糸川に水害に罹る、鹿児島新報 第1543号 付録 昭和7年9月15日

84 鹿児島市、鹿児島支那支那、震災復興人選、鹿児島新報 第26号 昭和9年2月15日

85 新聞はどうして出来る、鹿児島新報付刊(李重典著) 昭和9年9月23日

86 ニニエ事件、反乱公兵に死刑判決、大阪毎日新聞 号外 昭和11年7月7日

87 鹿児島保護使、伏せだせら、鹿児島日日新聞 号外 昭和12年7月17日

88 紙冠10年鹿児島市防空演習貼り紙、昭和10年9月、鹿児島市防護課

89 日中戦争の參戦、鹿児島新報 号外 和12年9月11日

90 高州の治外法権を撤廃、大阪毎日新聞 号外 和12年11月5日

91 日・独・伊・韓に對応定に頭印、鹿児島新報 号外 和12年11月7日

92 五・一九電火、威力強烈、鹿児島新報付刊 第1310号 昭和12年9月18日

93 市場不足で倒産に至り、買いの酒類を強奪、鹿児島新報 第199号 昭和12年12月16日

94 「南洲新聞の首先元」伊豆の木暮少司馬 少司馬伊豆新報 第1419号 昭和15年7月30日

95 鹿児島を皮切りに実施的な防犯講習、鹿児島日日新聞 号外 和15年7月23日

96 国内体制を強化、火の対日圧力、鹿児島新報 第14287号 昭和16年1月9日

97 貢穀制度へ無効が生じる、鹿児島新報 第277号 昭和16年8月8日

98 南洋島に米戦闘艇試験投入入り、大隅日日新聞 第21079号 昭和16年12月8日

99 初剪定した「アマミヤシカウ」、大隅日日新聞 第21200号 昭和17年1月1日

100 新聞紙第一刷一冊、鹿児島日日 第28号 昭和17年1月10日

101 の吉吾華士著、幕末の豪傑、鹿児島日報 第101号 昭和17年5月23日

102 豪傑のシード一歩、巻いたての吹除隊、鹿児島日報 昭和17年10月7日

103 戦敗記が色彩で現れるので、鹿児島日報 第973号 昭和19年10月18日

104 黄鶴楼、2ページで、四姓名を記、鹿児島日報 第1224号 昭和20年6月24日

105 連続空襲、特攻隊、空襲警報の際、鹿児島日報 第1226号 昭和20年6月26日

106 「新生主に暴君の攻撃」象が色渋音、鹿児島日報 第1227号 昭和20年6月27日

107 日本、ボーリング宣言を受取、鹿児島日報 第24665号 昭和20年9月3日

108 南日本新聞 第1号、昭和18年1月1日

109 丸呂兵衛、切符効力、大阪毎日新聞 第2112号 昭和17年1月20日

110 「誰で車を放棄せよ」車運正の駆逐、南日本新聞 1479号 昭和21年3月7日

111 チラシ「グリル庄屋島」昭和24年

112 朝鮮半島に中国が介入、敵討、停戦を要求、南日本新聞 3173号 昭和25年1月6日

113 GHQ、A級公使の起訴を発表、南日本新聞 第1532号 昭和21年4月30日

114 GHQの外ヶ島タクダ大統領、御誕生日記、毎日新聞 付録号 昭和21年12月23日

115 中京、国民に大笑、山城は國を説き、香港朝日、朝日刊 第3046年10月26日

116 人間ついに月を歩く、訃聞新報 第1747号 昭和44年7月22日

117 地球人、月へ第一歩、南日本新聞 昭和44年7月21日

118 日中交戦を終、戰争状態を終、南日本新聞 第478号 昭和7年9月30日

119 和洋室並用、新元号は「平成」、鹿児島新報 平成元年1月8日

120 花崗川ついに轟突入、南日本新聞 号外 平成元年1月17日

121 9:11:11、ニコニコ回転時子テロ The Times 平成13年9月12日

122 1世紀前の枕戯:漁船の出入りで覗う、鹿児島日日新聞 明治24年11月3日

123 片浦のクラクション入荷、一斤7円、鹿児島新報 明治26年3月11日

124 旗艦の初代スループ(?)のミルカ、鹿児島新報 明治26年12月22日

125 小樽港が相次いで開港、鹿児島新報 第3519号 明治27年4月24日

126 日暮れかわらシの巫女歌舞団、鹿児島新報 第3451号 昭和27年4月17日

127 南島でも、更民向党の争い、鹿児島新報 第3552号 明治27年6月1日

128 汽船、指揮棒、運営に向けた船へ、鹿児島新報 第3561号 明治27年6月12日

129 香港寄港の起程、矢張は知らぬ仲間兵、鹿児島新報 第5007号 明治32年5月28日

130 間もなく間にみる「富島官吏主事」、鹿児島新報 第5373号 明治33年6月19日

131 防衛省の「那嘉鹿島」免走、鹿児島新報 第600号 明治35年2月16日

132 鹿児島市・山川:山川徹監督請認の計画、鹿児島新報新聞 第600号 明治35年2月16日

133 今奇の奇跡「ひくひここご」、鹿児島新報 第1372号 明治39年11月28日

134 脊髄炎の全愈を記す、鹿児島新報 第381号 明治39年11月30日

135 旗艦、矛の森の馬鹿、佐佐良宮宿へ、鹿児島新報 明治43年9月

136 基層組織のため、旗手に直角枝手、鹿児島新報 第5493号 明治43年4月22日

137 山川市にカツの新築場所完成、鹿児島新報 第5493号 明治43年5月29日

138 西郷徳門の御代官、御代親、明治

139 復讐のための安座、鹿児島新報社、鹿児島新報社・鹿児島新報新聞社・明治・昭和

140 新聞代行の清滙、明治19年6月21日消

141 新聞代行の清滙、明治

142 鹿児島日日新聞社新紀念記事付録、鹿児島日日新聞社 大正14年

143 鹿児島国税署振替會会員新規ハガキ、6枚 昭和6年4月1日

144 駅便新報 第259号 昭和8年12月28日

145 東京日日新聞 第1478号 昭和11年9月10日

146 朝野新報 第1859号 昭和12年3月26日

147 鹿児島新報 第609号 昭和18年1月29日

148 改進新報 第167号 昭和20年2月2日

149 東京日日新聞 第3023号 昭和7年12月23日

時流前COCCOはむかし金剛屋「新聞でたどる近代史」

- | | | | |
|-----|--------------------------------|-----|------------------------------------|
| 150 | 憲事月報 第3号 明治29年7月11日 | 161 | 北庭新聞 第3342号 明治35年10月18日 |
| 151 | 南朝報 第1474号 明治31年8月24日 | 162 | 高須マツコ広告 憲事島新聞 日昭14年9月23日 |
| 152 | 婦女新聞 第205号 明治34年4月13日 | 163 | ミツバチ商店 広告 憲事島新聞 昭和7年9月14日 |
| 153 | 九州新聞 第3207号 大正4年5月25日 | 164 | 嵯峨富士広告 憲事島新聞 昭和7年9月14日 |
| 154 | 日本農業新聞 第28号 明治35年6月26日 | 165 | 仁月 鐘琴店 広告 憲事島朝日新聞 昭和16年1月8日 |
| 155 | 北支那毎日新聞 第421号 朝治38年1月17日 | 166 | 明治文安セシル・アンド・アーヴィング 憲事島新聞 明治27年1月1日 |
| 156 | 法律新聞 第472号 明治41年1月10日 | 167 | 山形屋 広告 エ刊憲事島 昭和25年11月7日 |
| 157 | 美音新聞 第36号 明治42年6月17日 | 168 | 新酒若狭館 広告 憲事島新聞 明治27年4月18日 |
| 158 | 士番新聞 第138号 明治20年8月27日 | 169 | 鹿児島専門書院 慶次郎人著 大正12年正月 |
| 159 | THE KOBE CHRONICLE 明治34年10月23日 | 170 | むかしむかし 広告 憲事島新聞 昭和12年4月18日 |
| 160 | 大日本新聞 第6042号 昭和18年1月1日 | 171 | カジヤ・ナシモト 広告 憲事島新聞 昭和19年5月11日 |

郷土の主なマスメディア論文

「鹿児島県新聞史」 吉田勇蔵 地方別日本新聞史 1956年7月	「郷土新聞78年の歩み」 芳賀正 三州讀義13号 1959年3月	「南国新聞太平記(上)」 三州讀義編集部 三州讀義13号 1959年3月	「南国新聞太平記(中)」 三州讀義編集部 三州讀義14号 1959年4月
「南国新聞太平記(下)」 三州讀義編集部 三州讀義15号 1959年6月	「南日本新聞社の源鬪闘争史」 鹿児島市政界21号 1961年1月	「錦絵西南戦争」 小西四郎 芸術生活319号 1966年11月	「鹿児島新聞創刊日談伝の謎」 芳賀正 鹿児島史学18号 1972年3月
「南日本新聞百年志」 南日本新聞社 1981年5月	「鹿児島新聞の初代社長・野村良明」 津留盛行 南日本新聞社 2001年7月	「鹿児島における自由権運廻の新向」 出澤政雄 南日本新聞社 2001年12月	「南日本新聞の百二十年」 南日本新聞社 2001年8月
「鹿児島在業新聞が報じた自衛軍の従軍記者」 大武進 南九州文化101号 2004年10月	「はがき号外」が報じた事務事件」 大武進 南九州文化102号 2005年1月	「史料が読み解く鹿児島の新聞創業史(上)」 大武進 南九州文化103号 2005年6月	「史料が読み解く鹿児島の新聞創業史(中)」 大武進 南九州文化104号 2005年11月
「史料が読み解く鹿児島の新聞創業史(下)」 大武進 南九州文化105号 2006年5月	「初代主筆・元吉秀三郎の足跡」 大武進 鹿児島民129号 2006年5月	「初代主筆・元吉秀三郎の足跡(後編)」 大武進 奥尻島民130号 2000年6月	「大武コレクション「新聞史料目録」」 大武進 橋本・私家版 2007年8月
「大武コレクション『戦前『日露戦争』号等』」 大武進 橋本・私家版 2007年8月	「西南戦争と評論新聞(一)」 大武進 南九州文化106号 2007年11月	「文芸町吉田書店の引札(一)」 大武進 南九州文化110号 2009年11月	「文芸町吉田書店の引札(二)」 大武進 南九州文化111号 2010年5月
「文芸町吉田書店の引札(三)」 大武進 南九州文化112号 2010年1月	「明治の雑誌シャーナリズム(上)」 大武進 鹿児島民131号 2007年5月	「明治の雑誌シャーナリズム(中)」 大武進 鹿児島民132号 2007年10月	「明治の雑誌シャーナリズム(下)」 大武進 鹿児島民133号 2009年4月

平成の鹿児島に生きるわれも、国内政治、国際情勢と無縁ではいられません。

スマティアの誕生から、今にいたる道筋をたどることと現代を理解する一つの方法いえないでしょうか。皆様にとって、この展示会と岡が、歴史を振り返る、あるはまた、将来を見つめ直すきっかけになれば幸いです。

人々がどのようにして情報を求めてきたか。鹿児島ではどのように、新聞メディアが発達してきたか。(参考)に供するため、大武進氏(大武文庫)が長年にわたって収集してきた新聞資料を展示させていたきました。大武氏は、昭和10年代から、鹿児島県内の古文書、古記録の収集、保存に取り組まれてきました。今回の展示では、大武氏の展示アイデアをもとに、その貴重かつ膨大な資料の中から新聞資料、文書、絵図等を厳選していただき、ご出品を賜りました。

おわりに

奥付

展示デザイン・制作

後援

【圖案・発行】
時遊館 COCCO はしむれ
〒891-0403 鹿児島県指宿市十一町2290

TEL.0993-23-5100
FAX.0993-23-5000
四国
渦上印刷株式会社
〒891-0122
鹿児島県鹿児島市南栄3-1-6
TEL.099-268-1002
FAX.099-266-3423

ART HANDS

KTS鹿児島テレビ
〒8900-0000
鹿児島市本町6-15-8
TEL 090-8888-1

南日本新聞社

明治	5年	1872	太陽曆採用
	7年	1874	佐賀の乱
	10年	1877	西南戦争
	15年	1882	鹿児島新聞(南日本新聞の前身)
	16年	1883	費城新聞、鹿児島日報
	22年	1889	鹿児島同志会、鹿児島新聞を買収
	23年	1890	尊皇仏国教絵入新聞
	24年	1891	鹿児島毎日新聞(明治30年、鹿児島新聞に吸收合併)、錦江新聞
	25年	1892	薩陽新聞
	27年	1894	日清戦争(翌28年終結)
	33年	1900	鹿児島実業新聞(大正2年、鹿児島朝日新聞と改称)
	37年	1904	日露戦争勃発(翌38年終結)
	39年	1906	三州家庭新聞
	42年	1912	九州日日新聞が支社、大島新報
	43年	1910	南島時報
	44年	1911	衛生新報、痛快新聞、大島時事
大正	2年	1913	鹿児島日日新聞(鹿児島毎日新聞が改題)、鹿児島朝日新聞(鹿児島実業新聞が改題)
	3年	1914	オーストリア、セルビアに宣戦布告。第一次世界大戦勃発。 桜島大噴火。大隅半島と陸続きになる。
	5年	1916	鹿児島新聞、宮崎で宮崎新聞を発行
	6年	1917	夕刊鹿児島商報(鹿児島新聞が鹿児島日日新聞を買収)
	7年	1918	第一次世界大戦終結
	12年	1923	関東大震災
昭和	5年	1930	宮崎時事新聞が支局開設
	6年	1931	鹿児島毎日新聞
	7年	1932	満洲国成立
	1932		五・一五事件
	11年	1936	二・二六事件
	12年	1937	日中戦争勃発
	14年	1939	ドイツがポーランドに侵攻。第2次世界大戦が始まる。
	15年	1940	一県一紙政策で、宮崎の日刊9紙が統合「日向日日新聞」
	16年	1941	日本軍による真珠湾攻撃。
	17年	1942	鹿児島日報(鹿児島新聞と鹿児島朝日新聞が合併、改題)
	19年	1944	鹿児島日報大島版
			アメリカのB29による爆撃が激化
	20年	1945	ボツダム宣言受
	21年	1946	南日本新聞(鹿児島日報が改題)、南海日日新聞(南日本新聞大島版が改題)
	23年	1948	こども南日本
	24年	1949	夕刊鹿児島新聞
	34年	1959	鹿児島毎日新聞(のち鹿児島新報と改題)
	38年	1963	ケネディ大統領暗殺
	44年	1969	アポロ月面着陸
	45年	1970	大阪万博開催
	47年	1972	日中国交樹立

鹿児島の新聞ジヤーナリズム年表